



平成三十一年度 施政方針

石垣市長 中山 義隆

はじめに

私は、昨年3月、市民の皆様からの負託を受け、石垣市長として3期目をスタートさせていただきました。市長就任当初から掲げてきました「日本一幸せあふれるまち石垣市」を実現するため、皆様と約束しましたマニフェストの達成に向けて職員と一丸となって取り組んでおります。

本市経済は、国内外の入城観光客数が好調であることから活況を呈しており、有効求人倍率は復帰後において過去最高を記録するなど高い水準を維持し、賃金の底上げも図られております。

また、民間による各地域のブランド力を評価する日本最大規模の消費者調査「地域ブランド調査2018 魅力度市区町村ランキング」におきまして、本市が県内トップの全国第13位に評価され、さらに民間調査機関による住民自身が地域の元気度合いを評価する「全国地域元気指数調査」市の部門において、全国3位にランク付けされました。同調査におきましては、地域元気指数と併せて個人の幸せ指数も上昇していることが評価されています。これからも、本市の魅力及び地域がますます活気付くような施策に取り組んでまいります。

当年度は、沖縄振興特別推進交付金に加え、内閣府沖縄振興費において新たに創設された「沖縄振興特定事業推進費」及び「沖縄における観光防

災力強化市町村支援事業」を有効に活用し、本市の振興や観光防災力の強化を更に高めていく施策を積極的に展開してまいります。

昨年12月、世界平和の鐘の会沖縄県支部と連携し、16カ国の駐日特命全権大使等のご臨席のもと、「ピースベルアイランド・イシガキ2018」を開催し、世界恒久平和の願いを全世界へ発信することができました。今後も、これからの時代を担っていく児童生徒を中心に、平和大使派遣や沖縄慰霊の日行事、平和フォーラム等への参加を継続的に呼びかけ、平和の機運醸成を図ってまいります。

観光地として持続的発展を目指すためには、観光客の満足度を高め、観光地としての質の向上を図ることが必要と考えます。昨年は、西表石垣国立公園が国際ダークスカイ協会より国内初の星空保護区に認定されました。国立天文台石垣島天文台に整備した星空学びの部屋における星空資源広報事業や南の島の星まつりに加え、新たな試みとして星空保護区認定記念イベント「アースナイトデー2018」を開催し、市民はもとより、観光客へ「星の島 石垣島」を強く訴求することができました。当年度は、石垣島の星空を疑似体験できる最新鋭のプラネタリウムを稼動し、更なる星空資源の広報と星文化の継承、八重山観光の期待感を創出する新たな観光施設として確立を目指し、また、県内初となる「市の星」の制定に向けて取

り組んでまいります。

現市役所本庁舎等の移転にかかる跡地利用につきましまして、「石垣市役所現庁舎等跡地利用基本方針」を策定しました。市民に大変愛着の深い場所であることから、現庁舎移転に伴い中心市街地の空洞化が懸念され、新たな活性化が求められております。基本方針におきましては、整備方針を「市民と来訪者との交流拠点」と定め、当年度は、民間活力を活用した整備に向け、様々な手法を検討し、最良のパートナー選定に向けて取り組んでまいります。

2015年9月、国際連合サミットにおきまして、2016年から2030年までの国際目標「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓い、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットが設定され、我が国におきましては、かかるビジョン達成に向けた取り組みの柱として、経済・社会・環境の分野における8つの優先課題を掲げています。このSDGsを活用し、達成に向けた取り組みを行うことで、地域課題解決に向けた自律的好循環を生み出すことができ、地域創生の課題解決を一層促進することが可能となります。本市におきましても、国が選定する「SDGs 未来都市」となるべく、2030年の将来ビジョン設定や達成に向けた取り組みを行い、持続可能なまちづくりと地域活性化に取り組んでまいります。

島の自然環境を守り活かす 「いしがき」

1. 環境と風景

本市は一年中緑の絶えない穏やかな気候に恵まれ、市の中央から北部にかけては、亜熱帯地域を